

学校生活支援ツール「より良い学校生活の過ごし方（試用版）」の使用感についてのアンケート調査へのご協力をお願い

日本小児がん研究グループ（JCCG）長期フォローアップ委員会の教育ワーキングでは、小児がん治療後の学校生活に必要な身体心理社会面の配慮事項を、小児がん経験者や家族、復学後の学校教員と医療者、院内学級教員が、双方向に共有するための学校生活支援ツール「より良い学校生活の過ごし方（試用版）」を作成しました。本ツールは、学校生活管理指導表の小児がん版です。

入院中に医療スタッフ・院内学級の教員・小児がん患者本人・保護者が協働して記入し、退院支援会議で共有した後、復学後の学校教育関係者へ情報が共有されます。このツールにより、医療と教育の連携が促進され、進級・進学や転校などの教育の場の変化や医療者・教育者の異動時の情報伝達も円滑になると期待されます。

本調査は、このツールの記入・使用を通じて、その使用感を調査することで、このツールの問題点を抽出し、ツールの改善を図ることを目的としています。

本ツールの活用ならびに、アンケート調査へのご協力をいただけますと幸いです。ご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

調査の概要

対象者

①共同研究機関として参加するJCCG登録施設において小児がん患者の復学支援に携わる病院医療教育関係者：医師、看護師、保育士、心理士、チャイルドライフ・スペシャリスト、ホスピタルプレイ・スペシャリスト、特別支援学校（学級）教員、医療ソーシャルワーカー、理学療法士、作業療法士等の方々

②小児がん患者本人（小学校4年生から高校3年生）、③その保護者、④復学後の学校教育関係者

調査期間：倫理審査承認後（2021年8月19日）～2026年4月30日（予定数に達し次第研究は終了とします）

調査方法：学校生活支援ツールの記入・使用后、無記名のWebアンケートへのアクセスにより、使用感をご回答いただきます。

調査方法

①共同研究機関として参加するJCCG登録施設にて実施します。

②本研究の研究代表者：瓜生英子の所属機関である国立国際医療研究センターの中央一括倫理審査で承認後、共同研究施設での調査が開始できます。

③研究分担者が、本人と保護者から同意を得た後、対象者の復学支援に関わる医療者・特別支援学校（学級）教員へ、ツールを使用する目的および内容、記入方法を共有し、記入後、復学支援会議または外来でご使用いただきます。

④ツールを使用後、その使用感について、webアンケートへご回答（以下のURLあるいはQRコード）をお願いいたします。URL：<https://jp.surveymonkey.com/r/G37KMSD>

研究代表者

瓜生 英子 国立国際医療研究センター病院 小児科（JCCG長期フォローアップ委員会）

共同研究者

早川 晶 淀川キリスト教病院 緩和医療内科（JCCG長期フォローアップ委員会）

永吉 美智枝 東京慈恵会医科大学 医学部看護学科

谷川 弘治 神戸松蔭女子学院大学 教育学部

問い合わせ先 東京都新宿区戸山1-21-1 国立国際医療研究センター病院 小児科 瓜生英子 huryuu@hosp.ncgm.go.jp

